



転車台の名残をとどめる役場加悦庁舎のピロティ

役場庁舎に残る 加悦駅の名残

ちなみに、加悦駅の用地は旧加悦町に譲渡され、現在、与謝野役場加悦庁舎の一部となっています。かつて「転車台」が存在したことが分かるよう、役場庁舎の設計がなされていて、1階正面玄関近くには「交流広場」と名付けられたピロティが設けられています。また、庁舎棟とCATVセンター棟、元気館は円形の回廊で結ばれています。

加悦駅舎は、2001年に曳き移転された後、保存修理工事が行われ、現在は旧加悦鉄道加悦駅舎（加悦鉄道資料館）として



現在の旧加悦鉄道加悦駅舎 ※ 左の車両は2号機関車

活用されています。なお、加悦鉄道で活躍した、蒸気機関車の2号機関車（国指定重要文化財）とC160、木造客車のハブ3とハ4995を展示しています。

来月号

今月号では、廃線後から現在までの歩みや、旧尾藤家住宅で開催中の「加悦鉄道開業100年特別企画展」などを紹介しました。来月号では、加悦鉄道で活躍したDC351ディーゼル機関車の現在の姿についてお伝えします。

旧尾藤家住宅 加悦鉄道開業100周年プロジェクト特別企画

旧尾藤家住宅では、加悦鉄道開業100年を記念し、加悦鉄道をテーマとした展示を開催しています。

広報よさの5月号（No.243）で紹介した駅名板と同じ松で作られた碁盤や、公募により提供いただいた写真などを展示しています。また、6月からは「聞き書き展」として、加悦鉄道にゆかりのある方や地元の方々の記憶や思い出、“かやてつ”があったところの日常の風景などを紹介しています。



<9/5～10/4>「心ときめく切り絵展」の開催

切り絵作家・水口千令さんによる「心ときめく切り絵展」を開催します。あわせて、水口さんによる切り絵ショーやワークショップも実施。水口さんは、教育分野でワークショップ講師や教科書の挿絵を手がけるなど、全国で活躍されています。アート分野での作品展示は関西初となります。柔和なお人柄も魅力の一つです。目の前で数分のうちに作品が生み出されていく切り絵ショーは、必見です。

図 旧尾藤家住宅 ☎ 43-1166



【連載 05】加悦鉄道（加悦～丹後山田）開業100年

ガタゴト かやてつ 100年号

大正から令和へ - 思い出のレール100年 -



広報よさの7月号（No.245）では、戦後の試練や時代の流れを経て、輸送事業が縮小され、廃線に至るまでの歩みをお伝えしました。今月号では、廃線後から現在に至るまでの歩みをお伝えします。あわせて、旧尾藤家住宅で開催中の「加悦鉄道開業100年特別企画展」などをご紹介します。

図 産業観光課 ☎ 43-9012



廃線になっても 線路敷は分断しない

廃線後、鉄道線路敷や鉄道施設は、加悦駅を除いて遊休資産として管理されることになりました。このとき、線路敷に隣接する多くの地主から、「線路敷を譲渡して欲しい」という声があったようです。このような中、まちの発展を60年にわたり支えてきた役割を重んじ、「線路敷は分断せずに活用を図る」判断に至ったそうです。

その結果、線路敷はすべて京都府に譲渡され、現在の自転車道となりました。この過程では、二重登記や名義変更が行われていない土地があったほか、中には幕末時代の名義人のままとされているものもあり、法定相続人の同意を得る手続に多くの労力と時間が費やされました。

自転車道に歴史を 感じられる仕掛けを

自転車道への整備は、1990年から5年間をかけて行われました。ただ、この整備では自転車道が整備されたものの、かつて線

路敷であったことを知る手がかりはありませんでした。1998年、加悦鉄道の線路敷を含む「府道803号自転車道」の完成時には、加悦鉄道が存在した歴史を伝える工夫がないことを惜しむ声が数多く聞かれたようです。現在は、駅名標や勾配標、距離標が設置され、かつて加悦鉄道の線路敷であったことを知ることができます。しかし、これらが設置されたのは2014年から2015年までのことです。



かつて駅があった場所には、線路ペイントと駅名標が設置されている（三河内口駅跡）